

○17番 蒲生吉夫委員 うそでしょう。

○大道寺 信委員長 そうです。間違っていますので、まとめていただきたいと思います。

17番、蒲生吉夫委員。

○17番 蒲生吉夫委員 わかりました。最後のところまで行かないでここだけです、するとわかりました。

指定管理者制度を取り入れるというのは、私はいいいと思うんです。いいと思いますが、向いてる、向いてない考えていくとね、今言ったように、B区をNPOにしなきゃいけないとかね、必ず矛盾が出てきます、これ。というのはね、今、地域の中で公民館の職員に頼んで地域の団体をお願いしてるところがありますね。指定管理者制度になればね、「それは私たちの業務ではありません」と簡単に断られるようになります。それが制度です。私はそれ困るんです。

具体的に言うとね、事務局みたいなものを全部公民館の館長や主事をお願いしてるんですよ。それはわかっててするののかというふうに私は言いたいです。断るのは簡単ですよ、公民館の館長も主事もね、いや、それは私らが受け取った指定管理者の中で受け取ったものではありませんので、どうぞ皆さんでやってくださいと、任意の団体でしょと、こういうふうになる可能性がうんと高いです。それを、そういう矛盾を解消するために、またもう一つ別のことを考えなきゃいけないというのが今回の制度だというふうに思うんです。

そこ、どうでしょうか。私のところで公民館の館長や主事にしてもらってることって本当にいっぱいあるんですよ。ああ、断られるようになるなって感じ私持っているんですけども、そうではないでしょうか。

○大道寺 信委員長 那須宗一文化生涯学習課長。

○那須宗一文化生涯学習課長 お答え申し上げます。

指定管理者制度を仮に地区公民館導入すると

いうことになりましても、公民館の運営のあり方については、基本的には私は変わらないというふうに思っております。そういった意味で、今回、長井市公民館振興計画というものをつくりまして、やはり公民館のあり方をきちんと定義しながら、それに沿った公民館運営をしていただこうと。やっぱり地域づくりの核でもあるし、生涯学習の核でもあるという地区公民館の役割というのは決して損なわれるものではないというふうに私は考えているところでございます。

○大道寺 信委員長 ここで暫時休憩いたします。再開は3時30分といたします。

午後 3時07分 休憩

午後 3時30分 再開

○大道寺 信委員長 休憩前に復し、会議を再開いたします。

町田義昭委員の総括質疑

○大道寺 信委員長 次に、順位3番、議席番号7番、町田義昭委員。

○7番 町田義昭委員 通告しております項目に従って、市長並びに自立経営対策室長の方から答弁をいただきたいと思います。

また、小さな項目ですけれども、順不同になるかと思っておりますので、よろしく願い申し上げたいと思います。

1番の自治体合併については、大先輩の小関委員の方から質問をなされたわけで、重複することはなるべく避けたいと思います。ほとんどのことを答えていただきましたので、何を質問

したらいいのか非常に戸惑っているわけでございまして、持ち時間30分を半分もしないで終わるんじゃないかなと、このように心配をしているところでございます。

時間もたっぷりあるようでございますので、少し蛇足の部分から入らせていただきたいと思ひます。

毎年12月になると流行語大賞というのが発表されるわけで、2007年も宮崎県知事の東国原知事の「どげんかせんといかん」というようなことで決定なされました。このフレーズが私の頭には非常に強烈にしみ込んでおりまして、今もってとれないのが状況でございます。

流行語大賞というのは、余りインパクトが強く残らないのが流行語大賞であったように記憶しておりまして、2006年ですか、荒川静香さんの「イナバウワー」ですか、その前が皆さんご承知の小泉首相の「小泉劇場」、そしてその前が、ちょうど4年前でありますので、オリンピックの年でありましたので、北島康介選手の「超気持ちいい」と、そんなふうなことで別に大して生活に影響あるとか、そんなことはほとんどないんでありますけれども、この「どげんかせんといかん」という言葉、長井弁で言えば「何とかしなきゃなんないんじゃないか」ということだと思いますけれども、長井弁は共通語でございますのでどこへ行っても通じるということで、通じないのは宮崎県ぐらいだと。そういうことで物すごく大事な言葉だなと思っております、今、日本国じゅう、政治・経済・教育・環境、どの分野においても何とかしなきゃなんないんでないかと。そして、国の存亡にかかわる防衛・エネルギー、そして食糧に至るまで何とかしなきゃいけないという状況になっているのが現状でないかと、そんなように思っておりますところでございます。

この自治体合併につきましても、やはりどうかしなきゃなんないんじゃないかという基本

的な考えには変わらないというふうに私は認識をしているわけで、このことについて少し質問をさせていただきたいと、そのように思ひます。

昨年暮れに近い、10月だったと思ひますけれども、山形県の20年度の予算編成の概要説明というようなことで、私もたまたまその会合に出席させていただきまして、齋藤知事の考え方をさわりの部分だけ聞かせていただいたわけでありまして、合併についても少し触れられておりました。

その状況の中で、齋藤知事は、それぞれの35の首長さんに手紙を書いたと。私の本音の部分を手紙に託しておりますので、よろしくご理解を賜って、20年度の事業に関して強力な協力体制をよろしく願ひしますというふうなことでありましたので、この合併の部分についての県知事の発言というか、その点について積極的な発言をなされているということは承知はしておりますけれども、中身について、もし支障がなければ、その点について市長の方から答弁をいただきたいと思ひます。

○大道寺 信委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 知事からの手紙については、いただきまして、そしてじっくり読ませていただきました。また、11月1日に全戸配布されました「県民のあゆみ」の中にも、こちら夢未来知事室ですということで、「発想の転換、結果から成果へ」の題名でメッセージも県民あてに出されたようですけども、私は全く知事と同感で、これからは大変な時代を迎えるわけでございます。それは人口減少と、そういった中で現在のままの住民サービスが、これから20年、30年後まできちんとサービス低下することなくやっていけるのかという視点で考えた場合、やはり今のうちにいろんな地域の思惑などもあるかもしれせんけれども、将来に向けての力ある地方自治体を目指して、ともに力を合わせていくという考え方は全く同感でございます。

そんな意味では、私は県知事、県の方で「置賜3市5町という特例市を目指すべきだ」という考え方についても、私は全く同感だというふうに思っております。

○大道寺 信委員長 7番、町田義昭委員。

○7番 町田義昭委員 長井市長の場合は、3市5町の中でも、とりわけ山形県の方針を決めていく合併については積極的な発言をなされておいたわけですし、今もその気持ちには変わりないということだと思いますので、今後ともそうしたことで歩んでほしいなど、そんなふうに思います。

昨年まで米沢市長さんは、余り合併というものには触れないと。積極的、消極的という言葉は使いたくないものですから、触れないでこられたわけで、ただし山形県の方針、特に今お話あったように、齋藤知事の方針というのははっきりしておりますので、選挙戦に入ってから方針転換をなされて、「当選した暁には3市5町の置賜一本の勉強会の場をつくっていく」というような約束をされたわけで、それが現在実現されてる語られておるといふふうに聞いております。

そもそも平成の大合併は、3,000余りの市町村が現在1,800を切ったというふうに聞いております。特例法期限内であれば、今2年弱ありますので、総務省で目標としている1,500には届かないかもしれませんが、かなり近い線が出てくるのではないかなというふうに察するわけで、おおむね所期の目的は達成するんじゃないかなというふうに言われております。

そこで、小関委員の質問もあったようでありますけれども、その勉強会の中身については私は答弁をいただいておりますのでよろしいんですけども、メディアの方の話によれば、部課長会だというふうに位置づけられているということであったように記憶しておりますけれども、その点についてどうなのかということと、長井市が

どういう立場の職員の方がそれに出席をしておられるのか、この2点について自立経営対策室長にお伺いいたします。

○大道寺 信委員長 遠藤健司自立経営対策室長。

○遠藤健司自立経営対策室長 町田委員のご質問にお答えいたします。

先ほどの小関委員へのお答えとも若干重複いたしますが、お許してください。

今まで3回、置賜広域合併についての勉強会を終えました。メンバーは、先ほど申し上げましたとおり、米沢の企画調整部長が事務局長、3市5町の合併担当課長、そして置賜広域行政事務組合の事務局長、この10名がメンバーとなっております。

その中で、それぞれの勉強会での出席状況を申し上げますと、1月29日につきましては、担当課長の出席が5名、代理出席が5名、自立経営対策室からは係長が出席いたしました。ちょうどこの日、私ども行財政改革推進委員会、以前より予定しておりましたので、私が外れるわけにいかず、係長が出席いたしました。

2回目は、2月18日、この日は担当課長、本人出席8名、代理出席1名、小国町は欠席です。

3回目、3月7日、これは長井市議会の一般質問の日でございます。この日は本人出席5名、代理出席4名、小国町は欠席というふうなことでございました。以上でございます。3月7日の長井市の出席者は、自立経営対策室の係長が出席しております。

○大道寺 信委員長 7番、町田義昭委員。

○7番 町田義昭委員 こういうスタートするときというのはね、物すごく大事なんじゃないかなと私は認識しております。とりわけ3市5町の第一歩を進めるという会議のときに足並みをそろえると、これはいろんな都合があると思うんだね、それぞれの自治体は。しかし、足並みをそろえる努力をしていかなければ、事をなし得る第一歩にならないんじゃないかなと、私は

+

そういうことを考えておりました、たまたま、けちをつけるわけではないんですけども、長井が、職員の能力を言っているんじゃないんですよ、部課長会ときはやっぱりそれに準ずる役職の人を送ってやるというのは、これはやっぱり常識じゃないかなと、私はそのように思っておるわけで、次に課長が出席して、その次また係長だと、ここに長井の意気込みを伝えなければならぬ状況のときに、周りからどのように感じられてしまうのかなというふうに私は思っていますけども、室長はどのような感想を持っておりますか。

○大道寺 信委員長 遠藤健司自立経営対策室長。

○遠藤健司自立経営対策室長 最初の1月29日の会議であります、米沢市の方が事務局をやっております、最初の会議ということで調整に相当ご苦労なさったようです。最初、1月22日か23日かというふうな照会がありましたので、どちらでも、22日ならば私が行くと、23日ならば代理の補佐が行くというふうにお答え申し上げました。

しかし、その日、第1回の勉強会で予定してました鶴岡市の課長さんの講演が1月29日ではないとだめだと、そういうことがございまして、どうにも日程が調整つかず、多分他の市や町もそういうことがあって半分の出席になったと。そういうことで、非常に私も当然行きたいと思いましたが、残念でした。代理として係長を出席させましたが、これは私、補佐が行革委員会に出なければならぬ、あと3月7日は私がこちらの一般質問、控えとして補佐もいるというように、次の係長を出さざるを得ないというようにございまして。ご理解ください。

○大道寺 信委員長 7番、町田義昭委員。

○7番 町田義昭委員 いろいろ事情あるわけですが、やはり3市5町のスタートライン、そしてこれから真剣な議論をしていくというときには、努めて部課長会という名に恥

じないような役職のある職員を送っていかうとする努力はしてほしいなど、そのように考えておるところでございます。この件については以上でございます。

次に、合併というのは、基本的にどこを目指すのかということになってくるのではないかなと、そういうふうに思います。合併すればいい町ができる、あるいは将来間違いなく運営をしていける町ができるということは、何ら保証がないわけございまして、いかにして、ここで言うならば、置賜の中で30年後、そして50年後に合併してよかったなというまちができるのかというようなことを模索しながら、基本をつくっていくというのが一般的でないのかなと私は思っているんでありますけども、ややもすると枠組みの方が先行しちゃって、それぞれの首長さんが勝手なことを発言しているというように、物すごく気になると。どこにその基本を置いていくのかと、基本はなくてもいいのかと。なくてもいいと言ったら語弊がありますが、やっぱり基本はそれぞれの首長さんはお考えになっておられると思いますけども、内谷市長は当然3市5町というものを基本にしながらも、いま一つの枠組みを模索しようと、このスタイルでいいのかというようなことは、私は少し疑問があります。

今、3市5町で勉強会をやろうとしているときに、それぞれの首長さんがいろんな話をしてしまうということは、なかなか1点に絞るとか、1点の同一方向に行こうとする力が弱くなるんじゃないかと、そんなふうな危惧しているわけで、どこに基本を置いていくのかということについて内谷市長の見解をお聞きします。

○大道寺 信委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 お答えいたします。

基本はどこにあるのかというのは、2つ町田委員の方から基本についての考え方2つあったと思います。まず一つは、最初の基本なんです

けども、これはどういう決断が長井市のために、市民の幸せのためにつながるかということの判断、この基本をどこに置くかということだと思いますし、あともう一つの枠組みとといいますか、合併の範囲については、その基本ということについては、私は3市5町でやるべきだということには3つほど理由があります。

まず一つは、特例市として20万人以上になるわけですから、そういった意味で言えばメリットがあるということ。あとも1点は、均衡ある置賜の発展を考えた場合に、3市5町で1つになるのがベストだろうと。あともう一つは、3市5町で合併しますと、県内では2番目の人口の規模になると。山形市が25万人ちょっとですから、24万人弱の新しい市が2番目になると。面積が日本一大きくなるということにして、面積が日本一大きいということは、すなわち例えば米沢市に一極集中するような中央集権的な自治体のあり方ではうまくいかないだろうと。したがって、地域内分権といいますか、そういう姿を模索しやすくなるだろうなというふうに考えまして、私は3市5町でやるのが一番いいというふうに思っております。

ただ、今、町田委員がおっしゃった、もう一方で置賜、西置賜というのは、私は西置賜1市2町で合併するのも方法としてはありますけども、それを進めるつもりはありません。あくまでも1市2町で同一行動をとりたいということです。例えば、それぞれの首長が温度差ありまして、今の段階では飯豊町長と私が非常に積極的だと思っております。

しかし、この後、町田委員からもお話があるのかもしれませんが、川西町長の発言やら南陽市長の発言というのも一理ありますけども、それは3市5町がどうしてもだめだとなった場合の選択であり、最初からそういったことを申し上げるのは余りいい方向ではないだろうというふうに思っております。

○大道寺 信委員長 7番、町田義昭委員。

○7番 町田義昭委員 「やはりできるところから合併をやって、将来一つにまとまる」なんて言っている首長さんもおられるわけですね。こういう考え方、それは一つの考え方でしょうけれども、そういうことで合併がうまくいったところというのは余り聞いてないんですね。やはりこの合併でまとまろうと。しかしながら、やむを得ずそこから脱落したとか、そういうことで合併ができたというところは、これは多々あるわけで、山形県にも当然あるわけでございまして、やはり最初、基本的にこの合併が最もよいんだ、そして50年後には間違いなく喜んでいただけるような合併をしていきたい、またいくべきだということを基本とするならば、そこにすべてを集中して歩んでほしいなど、それは私の個人的な考えなんですけども、そのように考えております。

また、施政方針の中にも、最初は内谷市長は3市5町を基本としながらも、1市3町という発言もしたなんていう話も資料の中に、メディアの中にあるんですけども、その後も今度1市2町だと、そういうスタンスが変更になるというのが市民が一番不安を感じるということになってくると思いますので、やはり一つのことを決めればそこに邁進をしてほしいと。状況状況において変わってきますけども、やはり一たんレールに乗ったらそこへ進んでほしいなど、そんなふうに思っておるところでございます。

また、今、内谷市長は、「10年、20年という大計の中で合併というものを考えていかなきゃならない」というふうに施政方針の中でもうたっておるわけでありまして、私は合併については30年、50年の大計で物事を議論すべきだと、そのように思います。ということは、10年、20年だったら、私たちも先が見えるわけですね、見通しがきくわけです。見通しがきけば、合併は必要ないんじゃないかという発想が当然

+

出てくるわけで、やっぱり30年、そして50年と、私たちが全然想像つかない、そういう次元を見通す眼力もリーダーは持ち合わせなきゃならないし、当然内谷市長は持っておられるわけで、その方向も、しかと踏まえてほしいなど、そのように思います。

当然今、私たちじゃなくて小学生とかそういう人は、私たちの年代になったときに、何もわからない人が合併された地域を見るんですから、それ以外はないわけですね。必ず「いい市にしてくれたな」と私は言ってもらえるということとは、比較するものがないわけでありますので、やはりいろんな後からも出てくるんですけども、その基本的なところはしっかり踏まえてほしいと、そのように思います。

あと、期限内の合併ということで、先ほど副市長の方からも答弁ありましたけども、22年の3月だと、21年度中だということでもありますけども、私は「合併期限内にした場合にどういうメリットがあるのか」というようなことはいろんな市民の皆さんにお聞きされるんですけども、適切に答えることができないもんですから、いま一度、期限内にすればこれとこれは優遇されますよとか、そういうことを二、三教えていただきたいなど、それを市長にお願いします。

○**大道寺 信委員長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** 期限内にこだわる理由ということについては、メリットの部分でございますけども、旧合併特例法の場合は、たしか10年間の地方交付税をそのまま減らさないという約束だったと思いますけども、新合併特例法では5年間ということ、10年間のうち残りの5年間で少しずつ減らして、いわゆる合併した規模のその財政需要額に合ったような地方交付税が最終的には10年後になるということで、対応する時間が余裕があるということが私は大きなメリットだと思っております。

あともう1点は、合併特例債はなくなりまし

たけども、特に県の方で知事がおっしゃっているのは、合併した市町村についてはインフラ整備も含めて、特に道路等、そういったものを重点的に傾斜配分したいというような考え方もあって、特に西置賜、我々道路事情、非常におくれているわけでございますので、そういった意味ではメリットがあるのかなど、この2点だというふうに思っております。

○**大道寺 信委員長** 7番、町田義昭委員。

○**7番 町田義昭委員** 自分の今まで思っていることと同じようなことなんでありますので、今度は自信を持って市民の方たちに申し上げていけるなど、そんなように思います。

この期限内というものは、やはり大事なことだと思いますし、ただ期限内に大きな目標を立てた合併がなかなか進まない、あるいは難しいということになった場合に、期限内だからどことでも合併していいんだという考え方は、私はいかがなものかなというふうに思っておりますし、すべてがパーフェクトになった状態の合併をやったときに、初めてパーフェクト以上の答えが出てくるというのがやっぱり合併の姿だと思っておりますので、せっぱ詰まった場合に、じゃあやれるところからやろうかというところまで進んでしまうというおそれはないのか、その点について市長の見解をお伺いします。

○**大道寺 信委員長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** お答えします。

一番答えが難しい質問になるわけなんですけど、あと2年しかありませんので、先ほど小関委員のご質問にもお答えしましたけども、ことしの9月ぐらいまで少なくとも任意の合併協議会をつくる、あるいは法定ですと一番いいわけですけど、いきなり法定というのはなかなか難しいだろうと。そしてそれから新市の総合計画をつくと。そしていわゆるそれぞれ議会の採決をいただいて、可決をいただいて、そして調印と。それから県の方に申請という手続で、最低1年

6カ月ぐらいかかるんじゃないだろうか。22年の3月まで県の方に提出しなきゃいけないと。それを逆算すれば、やはりことしの遅くとも9月いっぱいぐらいで何らかの形をつくらなきゃいけないと。

その際、現実路線として、先ほど申し上げましたけど、1月の11日の3市5町の首長の発言を聞いてみますと、残念ながら西置賜でも、小国町さんはかなり厳しいとおっしゃってました。それを、厳しいとおっしゃっているのをまず何とか一緒にやりましょうということは声かけますけども、あと東南置賜の方でも、なかなか足並みがそろわないのかなというふうに思います。

そういった中で、じゃあこの残り2年間の中で具体的な合併を進めるとしたら、やはり私は、先ほど申し上げましたように、その際は、白鷹さんと飯豊さんとは一緒に行動したいと。それが、ちょっとこういう言い方をすると語弊あるかもしれませんが、4年前ですか、5年前ですか、米沢、川西、長井の組み合わせで、やっぱりなかなか難しいのかなと。また病院の2市2町というのも、果たしてそれでいいのかなと。これはなかなか難しいと思います。そんなことから、3市5町が基本。3市5町でならないとしても、合併についてはぜひ東北一だというのが白鷹と飯豊でございますので、協調体制をとってまいりたいと考えております。

○大道寺 信委員長 7番、町田義昭委員。

○7番 町田義昭委員 最大の目標である3市5町がなかなか進まなくなったという場合には、近隣の町との合併も考えざるを得ないというような認識でよろしいんですね。

よくハードルを高くしてしまうとなかなかそれぞれの自治体のエゴが出てくるわけで、新聞等を見ても、何か勉強会が始まってからの方が物すごくエリア合戦をしているような気がしてなりません。3局、米沢は米沢、東、西とか、どうしても私たち市民にとって物すごくエリア

合戦が強くなってきているなというような感じで、先ほども小関委員の質問の中で「温度差が物すごく大き過ぎる」という発言がありましたね。私はこの温度差というのはわかんないんですよ。同じような自治体なんてないんだから、もともと同じような自治体がない中で合併をしていこうとするときに、温度差なんてあるんですよ。すべてのものに差があるわけだ。それをいかにして調整をしていくかというのが議論の場であって、会合を開けば開くほど温度差が大きくなる、そこはちょっと不思議でなりませんけども、何か情勢が変わってきたんですか。その点について、市長。

○大道寺 信委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 私が考えますに、より具体的に期限が迫って、決断をしなきゃいけない。そこで本音と建前の部分がやはりあるのかなと。そこが小関委員がおっしゃった温度差。我々首長同士でも、話してみますとどこが本音かわからない部分があります。そういったところが温度差なのかなと思っています。

ちなみに、私の温度差というのは、やはり今定例会にもいろいろ市民の痛みを伴うようないろんな議案を上程させていただいておりますけども、我々は先のこともやりたいんですけど、我慢して地道にやろうとしているわけですね。しかし、そういうふうな姿勢をとってない市町村と果たして本当に未来のことを語れるのかという温度差はあります。

○大道寺 信委員長 7番、町田義昭委員。

○7番 町田義昭委員 私の個人的な考えなんですけども、次、5番目に余り適切でない言葉を使っているんですけども、「お友達合併」なんていう言葉で、どうしてもちょうど自分の周りの自治体とか、あるいは歴史的につながりのあるとか、あるいは生活圏が同じであるとか、そういうのが基本になっていくような感じがしてならないわけで、私の考えは、「合併というの

+

はやっぱり30年、50年の子供たちの幸せのために合併するんだ」というところを基本とするならば、それでいいのかなということになってくるわけで、ただ市長が「3市5町を基本とする」ということを言っておられるものですから、これについては深く入り込むつもりはないんですけども、私はあくまでも米沢が基本だろうと、そういうふうに思っております。米沢なくして合併はないのかなと。

ちょうど長井、飯豊さん、白鷹さん、今こそ、そこその人口あるんですけども、もう30年後には今の長井市よりちょっと多いだけになっちゃうんだね600平方キロを超える地域の中で。ちょっと物すごく不安ですね、私は。そして、新幹線も通ってない、高速もこれから高速を敷けるなんていうことはちょっと、南部道路はまた別にしまして、考えられない。永久に新幹線なし、高速なしの自治体で終わらせてしまうのかと。私は物すごく寂しいんですね。そこが本当に私のネックになっています。少なくとも新幹線が通って、高速が通っている何々市長井ですと、長井市ですとか、そういうものは子供たちに残したいなというのが私の願いなんです。その点について、違うなら違うでいいですから、お願いします。

○大道寺 信委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 私は、一番合併したい市は米沢市です。私も同じです。米沢とはぜひ合併すべきだと思っています。ただ、米沢と長井というのは合併できないですね。しかし、前回川西がそこに入ったわけですけど、それだけではやっぱりちょっと違うだろうなと思っています。

あと、新幹線とか高速道路とか通ってない市町村というのは全然恥じることはないと思います。むしろ長井については、通ってない方がむしろいいんじゃないでしょうか。地形的にそういう地形ですから、例えば米沢と合併しても長井は相変わらず通らないわけですよ。ただ同じ市

に新幹線とか通っているだけで、そうしますとむしろ長井の人たちは、あるいはこの西置賜の人たちは、新幹線のあるところとか、そちらに移り住むということなんですね。ですから、3市5町の首長会でも、ある首長から話ありましたけども、「西置賜は我々と合併しない方がいいんじゃないか。過疎になるぞ。我々の方さみんな来っこで」というふうにおっしゃってました。

ですから、私は新幹線と残念ながら高速道路は通らなくても、でもそれなりに繁栄できる、あるいは市民が幸せになれる方法はあるだろうと思っておりますので、私は余りそこはこだわってない。しかし、米沢というポテンシャルありますし、あと向こうは城下町で我々はいわゆる農村、商人のまちですから、そういった意味では違ったあり方でお互いのよさを出し合えるんじゃないかと、そこに私は魅力を感じています。

○大道寺 信委員長 7番、町田義昭委員。

○7番 町田義昭委員 米沢とは同じ考えになったんですけども、新幹線とか、それについては市長とは全然私は違う考えでございます。

それはそれとしまして、なぜ米沢なのかといいますのは、それはいろいろあるんですけども、「やはり米沢とは大変だよ」と。もう99%の人が申し上げると思いますけども、私は、市長が上杉鷹山公を敬愛しているんな場所でその話をなされておりますけども、やっぱり上杉鷹山公が藩改革が成功したというのは何でなるのかなと私は常に考えておるんですけども、それを市長に問うつもりもないんですけども、私は、血が違ったと、そう思っているんです。やっぱり九州の、恐らく宮崎県あたりの方だと思うのね、だから全然しがらみがない中でそういう発想も全然違うわけだね、そういう中で改革ができたと思っています。それも一つの条件だったろうと。

そういうことで、同じような自治体が一番簡単なんですけども、やはり一つ超えた新しいまちをつくっていくと、新しい行政体をつくっていくというときは、血液の違う、考え方の違う合併というものは大事なんではないかなと、そんなふうに思っております。

次に、自立についてということは、非常に後ろ向きな考えで、しかしながら合併が100%であるということでもないと思いますので、その辺についての見解、認識を市長にもちょっとお願いしたいなと、そんなふうに思います。

私は、長井市は自立できると思います。ただ、自立できなくなる自治体も出てくるということであって、今までいろんな行財政改革を率先してやってきた、これぐらいやってきてできないわけがないと、そういうふうに思っているし、また合併とは全然違った話なんですけども、そういう点についてもちょっと市長の見解をお聞かせください。

○**大道寺 信委員長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** 自立につきましては、ちょっと質問にはなかったんですが、自立経営対策室ってありますけども、これを20年度は課内室に後退させるような形なんですけど、実は私はもう行革だけが自立じゃないだろうというふうに思っておりますので、そういった意味では自立経営対策室という後ろ向きな名称は実は変えたいと。しかし、今回、それは昨年つくっていただいたばかりですから変えられない。あとやれることはもう相当やっていますので、恐らくここまで今回の議案出しているような自治体はそうはないと思います。ですから、むしろこれからはもう少し新しい前向きな自立というよりも、もう地域経営みたいな、そういうのをみんなで考える時代だなと思っております。

市町村の自立につきましては、私は一番実は懸念しているのは、最初3市5町の勉強会の話がありましたですね。4月の2日に首長同士で

3市5町で会合を持つんですけども、この件についてですね。将来像はいいんですけども、一番肝心の、それは30年、50年後だったら将来像でいいんですけども、肝心の10年後、20年後どうなるかという部分で、例えば長井であれば小学校の耐震化とか大規模改修とかどうする、あるいは学習プラザどうする、こういった近々の課題があるわけですよね。そういうものをほかの市町村はどういうものがあるかというのはよくわからない。合併でも置賜3市5町でいろいろ団体がやった経過などもあります。そういうのを見てもみると、やはり準備が整ってないうちに、まず合併すれば何とかなるだろうみたいな、それこそお友達ですね、そういうやり方して、結果はさんざんだったわけですので、そういった意味ではそれぞれの自治体が健全なまず合併に向けての努力、これをやっていくべきだろうと思っています。長井は、町田委員がおっしゃったように、ここを正念場、乗り越えますと10年、20年は何とか、人口が減る問題はありますけども、やっていけるんじゃないかなというふうに思っております。

○**大道寺 信委員長** 7番、町田義昭委員。

○**7番 町田義昭委員** やはりこのたびの合併については、恐らく総務省の方も一段落というスタイルになるんじゃないかなと予想しながら、もう既にこの間、5日ほど前の新聞にも出ておったんですけども、道州制、そして連邦制というものが語られ始めて、もう大体骨子が出て、骨子まではいかないでしょうけども、出てきていると。そして少なくとも1,000にしたいと。そして最終的には700まで持っていきたいというような数字がもう出ているわけですね、小さくまとまって、その後、二段階の合併なんていうのは、私は本当に言葉は悪いんですけども、愚の骨頂だろう、またあり得ないことだろうと、そういうふうに思っておりますので、基本的な合併に向かって邁進をいただければすばらしい

+

のではないかなと、そのように思っております。

先般の一般質問の中でも市長が答えられておったんですけども、「この合併については、夏あたりごろにかけまして、それぞれの地域を回って説明会を持っていく」というお話あったわけで、その説明会の仕方なんですけども、私は前市長のときにも、当然そのことについては長井市じゅうくまなく市民の方にお伝えをしたはずでありますけども、あの戦法では説得力に欠けるなど、そう思っています。

やはり人口が減るということは、もう市民の皆さんほとんどの人が知っているわけなのでありますけども、そしてそれに伴って財政が厳しくなると、国から来るお金が少なくなりますのでこうなりますよというような、この3点ぐらいが重点にお知らせ版になっておったわけでありまして、もっと深い長井のまちのシミュレーションを私はさせていただいて、それを市民の方々の現場でもってやっぱり目で見てもらう、そして聞いてもらう、触れてもらうまではいかないんですけども、そういうのは必要なんじゃないかなと。やっぱり経済動向とかかなり違ってくると思いますね。30年後、2万の人口になった場合の長井市なんてね。それは想像なんてつける人いないんでしょうけれども、しかしそこはすばらしい長井市の幹部職員がおられるわけでありまして、私は勉強して一つの形にあらわしてほしいなど、そういうふうに思っております。その点について市長はいかがですか。

○大道寺 信委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 夏までの車座集会また開いて、今回合併のことについていろいろ市民の皆さんから意見をいただきながら、合意を図れるように努力してまいりたいと思っておりますが、せんだっての車座集会の中で、やはり「合併が必ずしもよくないぞ」という意見は予想外に多かったものですから、ちょっとこれはきちっと話し合いを持つべきだろうというふうには思っておりま

すし、あと議会の皆様とも具体的な話というのはなかなか、こういう質問の場ではあるんですが、できておりませんので、その辺はこれからぜひ積極的に進めてまいりたいというふうには思っております。

十分なシミュレーションということですが、やはり確かに人口は30年後2万人ちょっとになるんですけども、これはこのままでいった場合はそうなるということですので、これは自立でいくとになったら、今度は逆にほかの自立しない市町村同士の競争ですから、どういうふうにして長井に人が集まるかと、そういうようなことを議会の皆様ともいろいろ知恵を出し合いながら、まず活力ある長井を堅持できるように努力したいと思っております。

○大道寺 信委員長 7番、町田義昭委員。

○7番 町田義昭委員 市報に車座集会のことについてちょっと、合併について触れられておったわけですけども、合併について今考えられることを選択肢は3つなんていう、あの原稿はどなたがお書きになったんですか。

この前の勉強会に総合支庁長からいただいた資料を、どっかで聞いたような言葉だなと思ったんですけども、それそっくり載っかっているんですね、3つね。私、こういうのはあんまり好きじゃないもんですから、知らない人はこれでいいですよ。やっぱり長井は長井の言葉で書いていただきたいなど、これは何のことはない、酒田市長の講演なんですからね。そのときは酒田市長の講演からと脇にやっぱり書いていただかないと、全然おもしろくなかったです。

そして最後に、「究極の行政改革である市町村合併に向かうのか」と書いているわけで、市町村合併は究極じゃないかと私常に思っているもんですから。究極というのはね、広辞苑を引きましたよ、最後の最後、とどのつまりと書かれていましたので、これはちょっと適切でないなど、そんなふうには思いました。余談ですけど

も、こういうのでなくて、今、長井がやっているときには、やっぱり長井のハートをあらわしていかなければならないと思いますので、いいことは引用しても結構ですけども、伝わる時に違うんじゃないかなと、そんなように気づきましたので、この点についてもよろしくお願いを申し上げたいなど、そんなふうに思います。

合併については、もう十分に質問させていただきましたので、この辺で終わりたいなど、そんなふうに思います。

続いて、施政方針からということで、そんなに深く考えておるわけでもございませんけども、施政方針を見て、読んで、聞いて、ちょっと気になったなと思う点がありましたので、この文化・芸術、特にスポーツ・教育というのはまた教育の分野とか社会教育の中で含んでいるよと言われるかもしれませんが、文化・芸術というのは長井市にとって物すごく大事なことでないかなと私は思っております。

ましてや、市長が言う「長井の心」というものを前面に出してまちづくりをなされているときに、金がないとかあるとかいうものではないと。金がなくてもこのところは今までどおりやっていきますよとか、そういうメッセージが欲しいなと思ったんですけども、その点について市長の考えをお聞きます。

○大道寺 信委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 率直に文化・芸術・スポーツについての記述がないということは、私のミスでございます。

一般質問でも、蒲生光男委員から、「全くわからない、後退しているんじゃないか」という質問ありました。私は、どうも市民向けにわかりやすくしようということで、基本計画じゃなくて、総合計画じゃなくて、また違った体系であらわしたんですが、ちょっと車座集会とかいろいろ関係でばたばたしてまして、この部分が、非常に大切な部分なんですけども、欠落してし

まったということで、非常に反省しているところでございますが、従来どおり一生懸命やっていくということにかわりはございません。

○大道寺 信委員長 7番、町田義昭委員。

○7番 町田義昭委員 やはりこの部分はそれぞれの自治体の、またそこに住んでいる市民の、あるいは町民の成熟度をあらわす部分だと思っておりますので、ここはやっぱりおろしたくないなど、低下させたくないなどというふうに考えておりますので、よろしくお願いを申し上げたいなど、そういうふうに思います。

最後になるわけでありまして、あるものを生かすまちづくりなんていうような当たり前のことなんですけども、若干気になったことがございました。

山形県の広報の中にも、齋藤知事が言っておられたわけで、これはどこの自治体でも言っておるわけなんですけども、やはりない物ねだりの行政でなくて、あるもの探しの行政をしていかなきゃならないというものが、今みんな基本になっているんじゃないかなということなんですけども、あるものは隠れているんですよ。土の中にあるかもしれないし、どっかに隠れているかもしれない。それを探し出すのが私たちの役割だということは十分わかるんですけども、目の前にあるものを利用しない手はないだろうと。また、目の前にあって全然気づかないなんて、そういう行政であったら寂しい限りだなと私は思っています。

と申しますのは、ことし新年早々、長井市にうれしいニュースがあったわけですね。全日本卓球選手権の中で、長井市出身の田勢選手が日本一に輝いたわけです。そのことが市報にも載らない、何も市民に伝わってこなかったというのは、私は物すごく寂しかったし、一体どういう感覚を持っておられるのかなと、そういうふうな思いました。

これ、日本一というのは二度ととれないんで

+

すね、普通。47回の国体のときに強化選手になって、そして青森山田へ行って今ちょっとわかりませんが、協和発酵に勤めてると思うんですね。本当に私はうれしくて拍手を送ったんです。

たまたま1月の20日前後の商工会議所の新年会ですか、そこで乾杯の音頭を仰せつかったもんですから、余りのうれしさに、私は「その選手を皆さん知っておりますか」ということで褒めたりして、「長井に誇りを感じますね」ということを申し上げたんですけれども、そういうことを知ってる人も長井にはたくさん役職している人がおったはずでありますけれども、全く知らなかった、そういう話。そういうあるものを、目の前のものをもっと利用したらいいんじゃないかと。そういう気持ちというのは物すごく大事じゃないかなと。

PRの仕方とか、きょうの新聞にも長井のどっかの先生が言っておられましたね。「長井は宣伝の仕方がそんなに上手な方でないよ」とか、山形県だって言われておりますね。それをやっぱり少しでも前進させるとか脱皮しようというときには、お互いに少し敏感にならないとよくないんじゃないかなと思っております。その点について、市長、お願いします。

○大道寺 信委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 町田委員おっしゃるとおりだと思います。私も全く知りませんでした。ある会合に行って、市民からお聞きして、「えっ、そんなことがあったんですか」というふうに聞いたところです。

昨年の暮れ、地区長連合会の方から、「日本一条例を生かして表彰を続けてほしい」と。ですから、その田勢夫妻、「夫婦でというのは本当にないんだぞ」という話をお聞きしまして、ぜひこれはやらなきゃならないなと。同時に、自立経営対策室も、残念ながら課内室にそれでしたんですけれども、そういった意味で、あるも

のについては本当に生かす、長井のすぐれた人あるいはそういう資源をぜひまちづくりに生かすべきだと思っております。これは反省して、これからも、やっぱり問題はちょっと我々の感覚が鈍っている部分があるのかなと。もう少し感性を研ぎ澄ませて仕事にも当たらなきゃならないなと反省しているところでございます。

○大道寺 信委員長 7番、町田義昭委員。

○7番 町田義昭委員 関連になるんですけど、余談ですけどもね、米沢市で「おしょうしな」という歌つくってるんですね。それを美空ひばりさんが歌っておったんですね。しかしながら、また発見しました。この間違う人が歌っておったんですよ。やはり美空ひばりさん、大歌手でありますけれども、だんだんと知っている人が少なくなったんでチェンジしてるわけですね、別な人がその「おしょうしな」という歌を歌っていると。この辺、やっぱり米沢に学ばなきゃなんないかなと私は思ったんですけれども、長井にもそういう、わざわざ昔の歌手にお願いして歌なんか歌っていただいた曲があるわけですね。

「長井ブルース」なんてね、大津美子さんが歌った。もうここにいる人だれも知らないかもしれないかもしれませんけれども、歌っていただいたわけですね。そういうものをまた、歌詞がよければの話です、歌詞が今の時代に合った歌詞でないとかわかりませんが、そういう人だったら今の歌手に歌っていただいて、またそういうものを残していくと、そんなふうなことも楽しいんじゃないかなと私は思います。

こんなことを言わせていただいて、質問を終わりたいと思います。ありがとうございます。

散 会

○大道寺 信委員長 本日はこれをもって散会いたします。

再開は19日午前10時といたします。ご協力ありがとうございました。

午後 4時30分 散会

+